

## 集まれ！ くるりんペーパー（図画工作科）

津市立南が丘小学校 教諭 三輪辰男

### I はじめに

造形活動は、色や形等によってイメージやメッセージを可視化して伝え合う営み、すなわちコミュニケーションである。この特性を活かし、楽しく効果的なエネルギー・環境教育を展開できないか—この問題意識に基づき平成 19 年度から様々な試みを続けてきた。

本実践は、その一環である。扱うテーマはゴミ問題。対象は 5 年生である。

### II 題材の概要と指導計画

#### ■ 題材の概要

津市では、ゴミの減量、エネルギー・森林資源の節約、温暖化の防止をねらいとして、平成 20 年度から全市立小学校において「くるりんペーパー事業」(以下、事業)を展開している。これは家庭で不要になった紙製容器類を回収し、トイレットペーパーに再生する取り組みである。紙製容器類 300g で 1 個のトイレットペーパーを作ることができる。回収対象は、「紙のリサイクルマーク」<sup>1)</sup> がついたお菓子



紙のリサイクルマーク

や食料品の空き箱等である。毎月末、市の職員が来校し回収してゆく。再生されたトイレットペーパーは、回収量に応じて各校に配布される。

本校では、5、6 年生の環境委員会の児童が回収を担当している。近年、残念ながら回収量は減少傾向にあり、対象外の紙類<sup>2)</sup>の混在も認められる。

そこで本題材は、児童における事業目的・仕組みの理解促進と協力への意識喚起をねらいとして設定するものである。具体的には、オリジナル・キャラクターが登場し、事業への協力を呼び掛けるポスターを作り校内に掲示する活動である。

#### ■ 指導計画（全 5 時間）

第 1 次（1.5 時間）では、本校の回収状況を知らせ、事業目的と仕組みを再確認する。続いて、事業への協力を呼び掛けるキャラクターを構想し、絵に表す。

第 2 次（3 時間）では、前次に表したキャラクターが登場し、思わず見たくなる「しかけ」のあるポスターを工夫して作る。製作には B4 画用紙に油性ペンと色鉛筆を用いる。題材のねらいに即し、「ゴミを出さないこと」を製作の条件とする。

<sup>1)</sup> 正式名称は「紙製容器包装識別マーク」。紙が総重量の 50% 以上を占める紙製容器包装に付けられる。リサイクルが円滑に行われ、消費者が容易に分別排出できることを目的としている。

<sup>2)</sup> 油等のしみ出し防止加工がしてあるもの、金銀色の印刷がしてあるもの、匂い付きのもの、汚れているもの、段ボールは回収の対象外である。

第3次（0.5時間）では、鑑賞活動を行う。訴求力が優れた作品を選択し、その表現効果についてワークシートに記入する。

授業終了後、全校児童に事業への協力を呼び掛けるため、校内各所に作品を展示する。

### Ⅲ 授業の実際

#### ■ 第1次：本校の回収状況を知り、事業への協力を呼び掛けるキャラクターを表す

##### （1）本校の回収状況を知る

児童が注目したところで、次の内容を書いた紙を黒板に貼る。

**あまり集まらない。去年の半分の量**

「何のことでしょう。」と問う。約半数が挙手。「ペットボトルのキャップ」、「アルミ缶」、「古切手」が出る。いずれも本校の回収物である。4人目で正解の「くるりんペーパー」が出る。

「くるりんペーパー」と板書し、「学校で集めていることを知っている人？」と問う。全員挙手。「知っているのに集まらないのは、なぜでしょう。」と問う。「関心がないから。」、「大事とっていないから。」、「よく知らないから。」が出る。

そこで、「どんな取り組みか、目的や仕組みを説明できる人？」と問う。しばらくして環境委員会の児童を含む数名が挙手。大いに褒めた後、起立させ順番に説明させる。不十分な点や誤認している内容は、指導者が補い修正を加える。

事業目的であるゴミの減量、エネルギー・森林資源の節約、温暖化の防止につい

て、具体的な数値や図を示しながら説明する。

説明後、冒頭に示した紙を指し、「では集まらなかった紙は、どうなったのでしょうか。」と問う。「捨てられた」が出る。「我が家もそうしているという人？」。多数が挙手。

捨てられた紙類は焼却されること、それはエネルギー・資源の浪費に外ならず温暖化につながることを、紙を作る木を育てるには長い年月が必要なことを話す。

##### （2）キャラクターを表す

再び冒頭の紙を指し、「残念ながら、これが現状です。（しばらく間）どうしたいですか。」と問う。「もっと増やしたいです。」、「去年ぐらいは集めたいです。」等が出る。

これらの発言を受け、「では、図工らしい方法で取り組みましょう。」と言い、次のめあてと題材名を書いた紙を黒板に貼り、音読させる。

**協力を呼びかけるキャラクターを、形や色などを工夫して絵に表そう。**

キャラクターの創作に集中させるため、この段階ではポスターについて触れないでおく。

「工夫」の具体的事例を示すため、既存のキャラクターの絵を示す。「アンパンマン」、「バイキンマン」（いずれも、やなせたかし作）と「あべのべあ」（あべのハルカス展望台のキャラクター）の3点である。よく知っているキャラクターの登場に、児童は大喜びであった。

児童とやり取りをしながら、色や形によってキャラクターの性格や役割が伝わること、「あべのべあ」においては名称も工夫されている<sup>3)</sup>ことを確認する。

### (3) キャラクターのアイデア・スケッチをする

ワークシートを配布し、キャラクターのアイデア・スケッチに取り組ませる。

発想の起点を与え、多様な発想を可能とするため、次の3種類から選択させる(複数選択も可)。

- ① 事業のイメージ・キャラクター
- ② 「集めている紙箱など」のキャラクター
- ③ 「集めていない紙箱など」のキャラクター



アイデア・スケッチをする

本活動によってキャラクターのイメージが明確になり、事業目的と仕組みへの理解も深まる。描き終えたキャラクターには、相応しい名称をつけさせる。

#### ■ 第2次：事業への協力を呼び掛けるポスターを作る

前次に表したキャラクターが登場し、

思わず見たくくなるような「しかけ」があるポスターを製作することを伝え、次のめあてを音読させる。

人の目を引き、だれにでも分かるポスターを工夫して作ろう。

材料や製作の条件(「ゴミを出さないこと」)について説明し、児童からの質問に答える。

次の項目を設けたワークシートを配布し、ポスターの構想を練らせる。

- ① 台紙の向きを、どうしますか。
- ② どのキャラクターを使いますか。
- ③ どんな広告文で人の目を引きつけますか。
- ④ キャラクター・広告文・しかけを、どこにどのように配置しますか。色はどうしますか。計画をかん単な図で表しましょう。

構想に際しては、印刷室にあった裏紙で「しかけ」を試作させる。



裏紙を切って試作する

構想を終えた児童には、台紙となる画用紙(B4)を渡し、本製作に移らせる。

<sup>3)</sup> 名称が回文になっている。

描画材料は油性ペンと色鉛筆である。「しかけ」の製作に使う色画用紙は、色別（全10色）に箱に入れて黒板前に並べておく。「ゴミを出さないこと」が条件であるため、切り取って不要になった色画用紙も元の箱に戻させる。

以下、本製作の様子である。



「しかけ」に使う色画用紙を吟味する



油性ペンで広告文の輪郭を描く



「しかけ」をめくり、大きさを確認する

児童が考えた「しかけ」は、色画用紙を任意の形に切って貼付け、鑑賞者にめくらせるタイプが大半を占めた。キャラクターのセリフや伝えたいメッセージを紙片で隠したもの、集めている紙類や集めていない紙類を問うクイズを書き、その答えを隠したもの等である。

中には、迷路を描いて、各分岐点でクイズを出して回答させるもの、色画用紙片を組み合わせる「しかけ」にしたものもあった。



色画用紙片をめくる「しかけ」



回る「しかけ」

### ■第3次：ポスターを鑑賞し、活動をふり返る

作品完成後、鑑賞活動を行う。

作品を机上に置き、ワークシートと筆

記用具を持って見て回る活動である。

活動に際し、事業への協力を呼び掛ける力が特に強いと思った作品を3点選び、ワークシートに作者名と選んだ理由を書くよう指示する。



選んだ理由をワークシートに記入する

以下、記入例を示す。作品は次頁の作品2である。

小さな紙をむだなく使っていて、黒と水色がすごく目立っているから目を引くと思う。キャラクターの表情がおこったり笑ったりしていて、気持ちも良く分かった。回るしかけがとてもおもしろくて、さわりたくなった。

色、キャラクターの表情、「しかけ」が鑑賞者に与える表現効果について指摘している。

鑑賞活動終了後、「ふり返り」としてワークシートに感想を書かせるとともに、5点の設問に4件法で回答させ、本題材の学習を終了した。

翌日、全校児童に事業への協力を呼び掛けるため、校内各所に作品を展示した。



登校してポスターを鑑賞する児童

#### IV 授業の感想

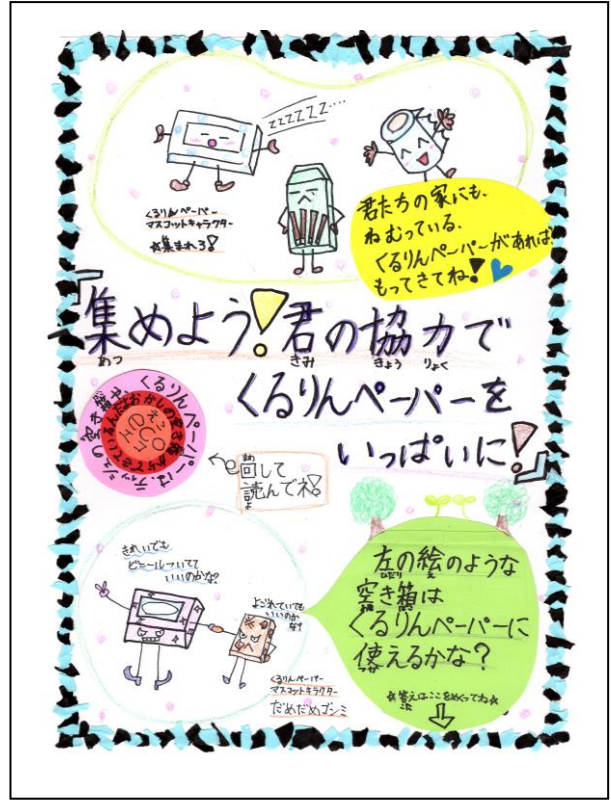
- ・ どうしたらみんなの目を引くことができるのかを考え、工夫してしかけを作ったりしてポスターを作ることができた。
- ・ くるりんペーパーの仕組みをよく知れたので、これからはどんどん出していこうと思います。ぼくが一番この授業でびっくりしたのは「しかけ」です。なぜなら色紙を使って文字をかくしたりするのが、ざん新だったからです。
- ・ 友達のをを見ると協力したくなるものが多かった。そして、しかけが人それぞれちがったのでおもしろかった。ついめくりたくなるような作品だった。このポスターで人の心を動かすことができたなら、うれしいなと思いました。
- ・ とにかく楽しかった。…〔略〕…これからは、もっと持ってきたいな～と思いました。地球おんだん化へのえいきょうがあることも知りませんでした。

V 児童の作品

「しかけ」をめくるタイプの作品は、めくった状態で掲載した。



1



2



3



4

## VI 実践を終えて

児童は本題材の趣旨を理解し、終始意欲的に造形活動を進めた。

「とにかく楽しかった」—感想文のこの言葉が示すように、本題材は児童から好評を得た。質問紙調査の結果もそれを物語る<sup>4)</sup>。また、ねらいとした事業目的・仕組みの理解促進、協力への意識喚起にも有効であったことが作品、感想文、質問紙調査の結果から伺える<sup>5)</sup>。

以上から、本題材は造形教育、エネルギー・環境教育の双方において有効に機能した、と判断することができる。

奏効の要因として、次の3点が挙げられる。

第1に、オリジナル・キャラクターの創作を課したことである。これは過去の実践群<sup>6)</sup>において、複数学年の児童から好評を得た課題である。今回もその有効性が確認された。

第2に、ポスター製作における「しかけ」の導入である。感想文で児童が「ざん新」と述べるように、一般のポスターとは異なる表現様式の新鮮さが活動意欲を喚起した、と考えられる。また、「しかけ」によって活動に可変性と発展性も生まれた。一般のポスターでは、下描き以降の内

容変更は難しい。できることは色の変更や加筆程度である。しかし、本題材では、活動過程で得た新たな発想を、その都度活かすことができる。計画の発展的変更が可能なのである。また、通常は失敗と見做される色のはみ出しや描き間違い等も、色画用紙を貼り足せばリセットできる。これで児童は気落ちすることなく、活動を継続することができる。

第3に、活動意義の明瞭性である。ともすれば造形活動は、「なぜそれをするのか」を確認せぬまま行われる場合がある<sup>7)</sup>。本題材では、環境保護活動への参画という明瞭な活動意義を示した。それが児童を本気にさせた、と考えられる。

今後も児童が活動意義を実感し、楽しく有効に働くエネルギー・環境教育を構想・展開していきたい。

<sup>4)</sup> 「この題材は、やる気が出る楽しい題材でしたか」の質問に対し、84%の児童が「とてもそうだ」、16%が「そうだ」と回答している。

<sup>5)</sup> 「くるりんペーパーの目的や仕組みを理解することができましたか」の質問に対し、96%の児童が「とてもそうだ」、4%が「そうだ」と回答している。また「ゴミ問題や温だん化問題への関心は高まりましたか」に対しては、88%が「とてもそうだ」、12%が「そうだ」と回答している。

<sup>6)</sup> 「はたらく！ 電気くん」(平成25年度、

2年生)、「集まれ！ やさしいヒーロー」(平成26年度、5年生)、「うらめしや〜」(平成28年度、5年生)である。

<sup>7)</sup> 平成28年12月21日の中央教育審議会の答申において、「芸術系教科・科目においては、…〔略〕…授業の中で、なぜそれを学ばなければならないかということを実感することについては、教員の意識としても、子供たちの意識としても弱いのではないかという指摘もなされている。」と述べられている。〔省略、および傍点引用者〕